

令和6年度 大田区立六郷中学校 自己評価 報告書

令和7年2月26日

○ 本校の概要

○ 令和7年度3月1日現在
 ○ 定員数408名 第1学年130名 第2学年126名 第3学年132名 特別支援学級(6)組(18)名
 < 学校教育目標 > 1. 知的・感性的豊かな生徒を育てる。 2. 健康明瞭で積極的な生徒を育てる。
 < 指導の重点 > 1. 学力の充実・努力の真摯な授業 2. 生徒の進歩を深める美しい心 3. 環境を整備するきれいな学校
 < 学校のスローガン > あ・し・み あいさつをする・時間を守る・身だしなみを整える

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価人数 コメント	
生予個 き測 る困 力難 標を な1 育未 成未 来社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決について意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。 ④総合的な学習の時間や特別活動などを活用して、目標・課題、実行するための見直しを適切に設定し、職場体験や外部人材を活用したキャリア教育の推進を図っている。	4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 3 3 3	「自分の学力が向上していると思う」とアンケートに答えた生徒の割合 4. 80%以上 3. 65%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	2	(これまでの取組) ・情報活用能力の育成を自指し、タブレットでの調べ学習を取り入れている。 ・社会科見学や移動教室など、事前事後学習において自ら考え、自ら行動し、自身や所属する集団が抱えている課題を解決できるよう設定している。 ・総合的な学習の時間では職場体験や宿泊行事、社会科見学などの事前学習、事後学習をICTの活用し、自らの課題解決に向けた授業を行っている。 ・課題に主体的に取り組む力を養うため、他者と意見を交換し、社会の様々な問題について考えさせた。 (今後の改善策) ・移動教室や社会科見学などの学校行事の事前学習、事後学習を削減することがあるため、生徒にとって大切な取り組みは削減しないようする。 ・卒業後に正解のない問題と向き合うこととなるため、日頃の授業の中で出た課題をどのように解決していくか、という機会を増やしていく必要があると考える。 ・各教科及び総合的な学習の時間の中で、グループ学習をより活性化させる。 ・生徒の学年や発達段階に応じて引き継ぎ適切な課題を課	A 5 B 2 C D	・生徒が主体的に考え、学習に取り組むことができるよう先生方はきめ細やかな工夫をされていると感じます。 ・この項目の評価が低いので、ここを伸ばしていく事を考えると良いのかと思いますが、取り組み内容が少し難しく感じます。 ・学校教育が教科書中心での授業であったが今は昔と異なり教育への視点が高レベルになってきているので、先生方も生徒の為に常にレベルアップを目指し対応している事に敬意と感謝を申し上げます。 ・中学校生活3年の中で多種多様な事案に対応し、保護者への学校評価アンケートも高評価を得て生徒一人ひとりへの対応が丁寧な姿勢が感じられます。 ・生徒一人ひとり、個々の能力に合わせて、自己肯定感を高めながら、個性と、その特性を生かした教育で自分自身にできないことの自信をつけてもらえたいと思ふ。 ・特に総合的な学習の時間においては、次世代のことも大切に重要なおもてようとする。身近な部分にせよ、地域活動を積極的に取り組ませる。 ・職場体験も興味あるものだけでなく、幅広い分野を間接的に知るだけでも将来必要になることもある。 ・グループワークも同じ人ではなく、様々な子どもの意見をしっかりと取り取り取る様な先生方の力量も大切だと思います。 ・ICTが先行しているが元に戻せることも大切ですが、スムーズな授業が行われていると思います。生徒も積極的に授業を受けているように感じました。
お世 界別 た目 をづ く担 な2 るが 人 材を 際 育都 成市 します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に融れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力を向上し、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 3 3	「私は何事にも目標をもって積極的に取り組んでいる」とアンケートに答えた生徒の割合 4. 80%以上 3. 65%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	4	(これまでの取組) ・特別支援学級の授業でもALTを活用し、英語の授業ではコミュニケーションを図るような動きを取り入れている。 ・英語の授業を中心にALTと会話する機会をもち、外国文化に触れる機会を増やしている。 ・海外派遣の発表会などを通して国際社会に関心をもつ機会が作られている。 ・生徒の中には日本語がほとんど伝わらず、英語でないと意思疎通が難しい生徒もいる。日本語と英語の2ヶ国語で伝える努力をしている。 ・英語を通して生徒の伝統文化に融れる機会を、相手と意図する精神を養っている。ALTを有効に活用し、国際社会に関心に向くような単元も設定している。 (今後の改善策) ・教材研究の時間の確保。 ・STEAM教育の考え方を取り入れ、より教科横断的な授業や取り組みを増やしていくこと。 ・授業やテスト問題を英語でも伝えられるよう教職員全員が英語力を高める必要がある。 ・教習員の協賛、留学生交流等の実践。	A 6 B 1 C D	・思春期における心の悩みなど様々な思いにあふれる中で、「いつも元気！」とは難しい面もある。そんな中でも前を向いていけるような取り組みをお願いします。 ・個別目標は国際都市おおたを担う人材育成となっているので例えば羽田空港などでの外国人対応の様子を見たり、実践するなどの国際教育につながるような材料があります。 ・羽田地域のコミュニティスクールでは英語に関する取り組みがされているのでそうしたお互いへの関わりは重要です。 ・英語しかわからない生徒の活用もコミュニケーションにおいてもとても大切だと思います。例えば半分英語のみで会話するなどの取り組みがいろいろあります。(生徒同士)
た一 個 め人 の目 標と 基礎 3 が個 性 と能 力 育 成 を し 発 揮 する	児童・生徒が豊かな人生を生き抜いていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。 ⑤読書学習の支援を基に本に親しみつつかけこみ委員会活動を通して行い、読書活動の定着を促している。	4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4. 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3. 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2. 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1. 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 3 3 3 3	「私は誰に対しても思いやりのある言動をしている」とアンケートに答えた生徒の割合 4. 80%以上 3. 65%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	3	(これまでの取組) ・特別支援学級では健やかな体の育成をするため、週3回朗読ランニング等の運動を取り入れている。 ・確かな学力を身につけさせるために、既習事項を繰り返し復習するなどしている。 ・家庭の縁、教育が基礎。 ・総合的な学習の時間を使って小中一貫教育で、小学校の教員と連携しながら取り組みをしている。 ・高畑小学校と高畑保育園との交流を通して一貫性のある教育を進めている。 ・道徳授業だけでなく行事などで上級生以下級生に範をみせる姿が多く設定されており、一貫性のある教育がなされている。 ・小学校までの既習事項を活用して中学生としての学力を身につけさせるような授業づくりに取り組んでいる。 ・生徒に早寝早起き月間では、生徒にアンケートを実施し、自己の生活を振り返り改善することができた。小中一貫なので、情報交換することで取り組んでいると感じる。高畑小学校との小中連携など、一貫教育に向けた活動を、力を入れて行っている。豊かなスポーツライフ、生涯スポーツの土台となるよう、運動、スポーツの楽しさを授業を通して体験させていく。 (今後の改善策) ・小中連携で教員がお互いに赴き、一貫性のある教育が行えるよう情報共有をし、課題解決に向けて行動している。さらにICTの活用について具体例を挙げると、お互い使用するアプリケーションを統一を図っていかないと考える。	A 5 B 1 C D	・語学については、楽しみながら生徒も先生も一緒に学べる機会があると良いと思う。英語を語る生徒を中心にイベントや給食、ディスカッション、ゲーム等。 ・今年度は、運動会や学習発表会などを見いけなかったのが残念です。学習発表会展示の部は、今年も良かったです。

<p>学校別目標 教 師 力 を 向 上 さ せ ます</p>	<p>校内研究等のOITの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させ、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:65%以上</p> <p>2:50%以上</p> <p>1:50%未満</p> <p>(これまでの取組) ・校内研修を通じて、教師同士で授業力向上に向けたICTの活用意欲を取り組んだ。 ・組織的に取り組むよう報告連絡相談を教員間で進めている。 ・授業で生徒の信頼を得るために、生徒が興味関心をもつて取り組むことができるような授業づくりに励んでいる。 ・(今後の改善策) ・教師の授業づくりの時間を確保すべく、部活動等他の業務を精選し、ICTを活用する必要がある。 ・人員不足から時間と進められ、毎日の業務をこなすのに精一杯なため人員確保が必要。 ・時間的、人力的余裕のない中ではあるが、先輩教員から若手教員への指導をもっと充実させていく。</p>
<p>た 自 個 別 目 標 学 び 学 ぶ 支 援 し ます</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況に合わせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと学べるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:65%以上</p> <p>2:50%以上</p> <p>1:50%未満</p> <p>(これまでの取組) ・特別支援学級では生徒一人ひとりに合わせて教材の工夫を行ったり、自分の意見を伝え他人の意見を聞く活動を取り入れた。個別最適な学びの実現のために、補習教室を開き、少人数展開で授業を行っている。 ・週3日、三人のスクールカウンセラーが勤務しており、1年生全員にスクールカウンセラーが面接を行っている。 ・教育相談や三者面談では、生徒一人ひとりの悩みや課題に親身に寄り添い、安全で安心な学校生活が送れるように、常に努めている。 ・特別支援教育においてサポートルームや適応指導教室などの関係機関との連携を進めることができた。 ・いじめアンケート・QOL楽しい学校生活を送るためのアンケートなどを活用して、生徒が直接相談しなくても、教員側から気持ちよく不安定な生徒を見つけたら、できる機会を作っている。 ・(今後の改善策) ・不登校になる傾向がある。学校では対応できないため、外部との折衝が必要。 ・教員の別室での対応を多くされており、教室の確保が必要。</p>	
<p>安 心 軟 弱 な 目 標 育 童 的 な 学 習 空 間 と 安 全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境を整備するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導などを進めて、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p> <p>③電子黒板やタブレット端末の入れ替えが行われる中で、生徒が活用しやすいICT環境を整備している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:65%以上</p> <p>2:50%以上</p> <p>1:50%未満</p> <p>(これまでの取組) ・教室のユニバーサルデザイン化として生徒の意識が授業に集中できるよう、掲示物は後方に定着、カーテンをとりつけるなどしている。 ・ネットリテラシーを高めるための保護者向けの講座を行った。 ・今年度はICT活用のための研修が多く設定され、自発的に参加している教員も多かった。 ・プロジェクトが新しくなるなど、ICT環境も整ってきている。 ・(今後の改善策) ・生徒のICT機器の取り扱いについて危機感をもっている教員も多いため、次年度で生徒向けの情報モラル講座も必要である。 ・定期点検を怠らずに環境整備を心がけていくことが必要である。 ・電子黒板が古い特別教室もあるので等しく環境整備をしていく必要がある。</p>	
<p>学 地 学 校 域 別 目 標 こ ぞ 育 成 地 域 の 核 と して 協 働 的 に 育 成 させ ます</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりを目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②傘下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p> <p>④生徒に地域行事の参加を呼びかけたり、地域のボランティア活動に協力して、生徒が地域において社会奉仕の精神を養う活動を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:65%以上</p> <p>2:50%以上</p> <p>1:50%未満</p> <p>(これまでの取組) ・特別支援学級では家庭との連携を高めるための連絡帳でのやりとりを行っている。 ・生徒たちはボランティアに積極的に参加しており、今年度は益徳寺やカーテンパーティなどの募集を行い、地域に感謝される機会が多かった。 ・地域連絡協議会のメンバーが授業での生徒の様子も見たり、3年生の面接練習も地域の方を借りました。 ・夏祭りでのパトロールやガードンパータイムなど、地域の諸行事で教員も参加した。 ・大塚神社の祭りに3年生が美化活動を行ったり、2年生が地域で職場体験するなど、地域で生徒が活躍する機会を設けた。 ・(今後の改善策) ・来年度もボランティアの企画を継続し地域に貢献したいという意識を強くしていくことが大事である。 ・学校運営協議会が中心と思いますが、学校以外の方が取りまどめるようにしてもらうと学校の動きが改革につながるのではないかと、地域の方に部活動の指導員として生徒の放課後の活動に協力頂く機会を作る。</p>		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す